

「四日市港カーボンニュートラルポート協議会」設立趣旨

国が策定した「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」では、成長が期待される産業（14分野）に係る取組の一つとして、我が国の輸出入の99.6%を取り扱う物流拠点であり、かつ我が国のCO2排出量の約6割を占める産業の多くが立地する産業拠点である港湾において、水素・燃料アンモニア等の大量かつ安定・安価な輸入や貯蔵・配送等を図るとともに、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や臨海部産業の集積等を通じて、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルポート（以下、「CNP」という。）の形成を推進することとしている。

四日市港は、我が国有数の石油化学コンビナート等を擁し、石油をはじめとしたエネルギーの輸入・供給拠点として、我が国の経済を支える重要な役割を担っており、そのための既存インフラや供給網が整っている。このため、今後、主要なエネルギー源が化石燃料から水素・燃料アンモニア等へ変化しても、四日市港は、これらを海外から受入、幅広く国内に供給していく、我が国における重要なエネルギーの輸入・供給拠点としてのポテンシャルを有しており、今後、我が国の経済成長を支えるためにも、四日市港は、これまでと変わらず、その役割を果たしていく必要がある。

このため、四日市港において、CNPの形成に向け、温室効果ガスの削減目標や実現するために講じるべき取組、水素・燃料アンモニア等の供給目標及び供給計画等について、産官学が連携して検討・情報交換を行うため、「四日市港カーボンニュートラルポート協議会」を設立するものである。